

道免憲司館長 着任インタビュー

山口県立美術館は、令和7年4月1日より新館長とともに新たなスタートをいたしました。皆さまに山口県立美術館のこと、そして5ヶ月経ったいまの館長の想いをご紹介します。



① 館長に就任後5ヶ月が経ちました。所感を願います。

以前から、美術関係のテレビ番組を見たり、各地の美術展に行ったりするのが好きだったので、館長に就任して、日々、美術作品に触れながら過ごせるのは大変幸せで、ありがたいことだと実感しています。

山口県美は、歴代の館長や学芸員の皆さんが築いてこられた素晴らしい伝統と実績があり、『いい展覧会がある美術館』というイメージを持っていたので、自分としてはとても光栄な気持ちですし、同時に責任の大きさも感じます。

② 山口県美のよさを紹介するとしたら、どんなところでしょうか。

まず、素晴らしい収蔵作品です。特に雪舟や香月泰男など、山口県ゆかりの芸術的価値の高い作品を数多く所蔵しており、郷土色豊かな美術館であることが一つの特色です。

それから、展示の質の高さです。学芸部門が優秀だからこそですが、展覧会の構成や工夫といった企画力や、作品をより魅力的に見せるための照明などへのこだわり・妥協のない姿勢(笑)は、どこの美術館にも負けない強みだと思っています。

もう一つ、山口県美は、「県民が参加する開かれた美術館」を目指しており、地域と連携したアートイベントなどを積極的に開催し、県の文化観光交流の拠点としての役割も担っています。

③ 144号発行にあたり、読者の方々へのメッセージをお願いします。

今年度後半は、9月25日から、「歌川国芳ー奇才絵師の魔力」を開催します。斬新なアイデアやユーモアに富んだ浮世絵で近年人気の高い国芳の魅力を余すことなく伝える、誰もが楽しめる展覧会です。

また、田中米吉や香月泰男など本県の誇る芸術家の作品によるコレクション展も開催しますので、ぜひ皆さん、お気軽に美術館に足を運んでみてください。



2025 - 2026

schedule
山口県立美術館 令和7年度展覧会スケジュール

	コレクション展示			特別展示
8月		7/10(木)~9/15(月・休) シベリア・シリーズⅡ 敗戦と収容所への移送	7/10(木)~9/15(月・休) 開園！ 香月どうぶつ園	特別展 7/10(木)~9/7(日) 岩合光昭 写真展 PANTANAL ファーストマンデー 8/4、9/1
9月	8/19(火)~9/15(月・休) どうぶつ絵画の世界			全館休館 9/16(火)~9/24(水)
10月	9/25(木)~10/26(日) 雲谷派の奇想			特別展 9/25(木)~11/24(月・休) 歌川国芳展 ー奇才絵師の魔力 ファーストマンデー 10/6、11/3
11月	10/28(火)~11/24(月・休) 雪舟と雲谷派	9/25(木)~12/25(木) 生誕100年 田中米吉	9/25(木)~12/25(木) シベリア・シリーズⅢ 収容所での生活	全館休館 11/25(火)~27(木)
12月	11/28(金)~12/25(木) 大きな日本画			全館休館 12/26(金)~1/5(月)
1月	1/6(火)~2/4(水) 新春寿ぐ吉祥画			1/22(木)~25(日) 第78回山口県学校美術展覧会 1/30(金)~2/1(日) 山口3大学合同卒業展 山口大学・山口県立大学・山口芸術短期大学
2月	2/17(火)~3/15(日) 文学×絵画	1/6(火)~4/12(日) シベリア・シリーズⅣ 帰還と故郷	1/6(火)~4/12(日) “人”を描く	全館休館 2/5(木)~16(月) 2/26(木)~3/15(日) 第78回山口県美術展覧会
3月	3/17(火)~4/12(日) 没後60年 藤田隆治			

Information

■休館日 月曜日 ※祝日もしくは振替休日の場合は開館し、翌火曜日休館。ただし、特別展開催時は火曜日も開館。特別展開催中の第1月曜日「ファーストマンデー」は開館。
臨時休館 9月16日(火)~24日(水)、11月25日(火)~27日(木)、12月26日(金)~2026年1月5日(月)、2月5日(木)~16日(月)
■開館時間 9:00~17:00(入場は16:30まで)
■料 金 コレクション展:一般400(320)円 学生250(200)円
※18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校在籍の方等は無料。
※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。
※令和7年(2025年)度メンバーズクラブ会員およびキャンパスメンバーズ加盟校の学生と教職員の方、法人サポーターズ会員の方は無料。
特別展ほか:展覧会によって料金が異なります。



山口県立美術館の公式アカウントはこちら



山口県立美術館
Yamaguchi Prefectural Art Museum
〒753-0089 山口県山口市亀山町3-1
TEL: 083-925-7788 FAX: 083-925-7790
https://y-pam.jp

Yamaguchi Prefectural Art Museum

山口県立美術館ニュース「天花」

144

Contents

コレクション展

“人”を描く
生誕100年 田中米吉
シベリア・シリーズⅢ・Ⅳ
没後60年 藤田隆治

特別展

歌川国芳展ー奇才絵師の魔力
第78回山口県美術展覧会

新館長着任インタビュー
年間スケジュール

天花

TENGE



長屋 勇 《画室にて》 1952年 油彩／カンヴァス 山口県立美術館蔵

Collection

コレクション展

“人”を描く
2026年1月6日(火)~4月12日(日)

表紙作品解説

長屋勇
《画室にて》
1952年
油彩／カンヴァス
山口県立美術館蔵

ここは「画室」、すなわちアトリエです。画面中央奥、ブラインドを少し上げた窓から差し込む光が、柔らかく室内を照らしだしています。カーペット上に立つヌードの女性は、今まさにモデルを務めているところ。うつむき加減で、白布で前を隠しつつ、左足に重心を置き右ひざを軽く曲げたポーズをとっています。右奥には、イーゼルにたてかけたカンヴァスに向かい、絵筆をはしらせる女性。左手でパレットと絵筆を同時に持つ姿はなかなか堂に入ったもの。爽やかな水色のワンピースを着た彼女のカンヴァスを見つめる眼差しからは、制作に集中している様子がうかがえます。

長屋勇(1893~1961)は山口県佐波郡(現:防府市)生まれの洋画家です。東京美術学校を卒業後、約3年の渡欧遊学中に帝展初入選を果たして以降入選を続け、新文展では無鑑査に推薦されました。戦後は主に日展で作品を発表、友人と新世紀美術協会を結成し、委員として同会の中心的な存在でもありました。

長屋は、1941年より多摩美術学校(後の多摩美術大学)において、1942年からは共立女子学園(後の共立女子大学)でも教鞭を執っていました。おそらく、このようにモデルを前に制作に励む若者がいる室内の情景というのは、画家にとってなじみ深いものであったことでしょう。長屋らしい穏やかな作風を示す本作は、第8回日展に出品され、岡田賞を受賞しました。

(山口県立美術館 学芸課主任 矢追愛弓)

山口県立美術館ニュース「天花」第144号 令和7年8月発行

編集:指定管理者サントーパブリシティサービスグループ

発行:山口県立美術館 印刷:株式会社 曙報社

コレクション展

生誕100年 田中米吉

2025年 9月25日(土)～12月25日(土)



田中米吉《ドッキング BW.20》1968年 アルミ・鉄・アクリルラッカー 山口県立美術館蔵

宇部市常盤公園の噴水池近く、一本のポールが支える大きなレンガ色の直方体を見たことはありますか。あるいは、山口からは少々遠いですが、埼玉県立近代美術館の建築からニョッキリと姿を見ている黒く四角い物体はどうでしょう？

これらの不思議な造形を生み出したのは、山口市生まれの現代美術家・田中米吉(1925～2021)です。銘菓の老舗の次男として生まれた彼は、絵を描くことが好きな子供時代を過ごし、旧制山口県立山口中学校、旧制宇部工業専門学校機械科へと進学。戦後は県内の中学校で教員をしながら作品制作を行っていましたが、美術家になるべく仕事を辞め、東京へと移りました。そこで絵画から立体へと、制作の転機を迎えます。1965年、家業を継ぐために山口へと戻り、以後亡くなるまで山口を拠点に制作を続けました。

作品と空間、モノの表と裏といった様々なものを“ドッキング”させた田中米吉の作品は、立体が見えないなど、摩訶不思議な感覚をもたらします。生誕100年を迎える本年、改めてその唯一無二の世界をお楽しみください。

特別展 山口放送開局70周年記念

歌川国芳展

奇才絵師の魔力

会期

2025年 9月25日(土)～11月24日(月・休)

◎大幅な展示替えを行います。
前期: 9月25日(木)～10月26日(日) / 後期: 10月28日(火)～11月24日(月・休)
休館日: 月曜日(ただし10月6日、13日、11月3日、24日は開館)

観覧料

一般1,600(1,400)円 / シニア・学生1,400(1,200)円
◎コレクション展セット券(当日券のみ)一般1,700円 / 学生1,500円

※シニアは70歳以上の方、()内は前売り、オンラインチケットおよび20名以上の団体料金。
※高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料。 ※障害者手帳等をご持参の方とその介護の方1名は無料。
※前売り券は、ローソンまたはミニストップ店内のLoppi(Lコード: 62097)、セブンチケット(セブンコード: 111-936)で
お求めください。オンラインチケットの購入については、当館ウェブサイトをご覧ください。

主催 山口県立美術館、読売新聞社、KRY山口放送
特別協賛 西京銀行



《みかけハチハるがとんだいノ人だ》
弘化4年(1847)頃 [通期展示]

江戸時代末期に活躍した歌川国芳(1797-1861)は、浮世絵の歴史を塗りかえる斬新な作品を生み出しました。人気小説「水滸伝」をテーマとした武者絵の大ヒットをきっかけに頭角を現し、美人画、役者絵など幅広いジャンルで存在感を示していきます。とりわけ戯画では、擬人化された動物たちの明るく笑いに満ちた世界をつくりあげ、時にはそこに幕府に対する風刺を含ませて、圧倒的な人気を誇りました。

奇抜なアイデアやデザインセンス、ユーモアを存分に発揮した国芳。江戸時代の庶民だけでなく、時代や国を越えて、世界中の人々を魅了し続けています。その絶大なる波及力こそ、まさに国芳の“魔力”といえるでしょう。本展では、武者絵や戯画、美人画、役者絵、風景画など、あらゆるジャンルを手がけた国芳の画業の全貌を紹介します。また、色鮮やかで良質な摺の浮世絵版画に貴重な肉筆画を加えた約400件で、その魅力に迫ります。

これぞ国芳展の決定版!誰もが楽しめる最大級の展覧会で、芸術の秋をお楽しみください。



《相馬の古内裏》弘化2～3年(1845～46)頃 [通期展示]



《朝比奈小人嶋遊》弘化4年(1847) [通期展示]



《きん魚づくし ぼんぼん》
天保13年(1842)頃 [通期展示]



《通俗水滸伝豪傑百八人之志人 浪裡白跳張順》
文政11～12年(1828～29)頃 [通期展示]
※作品はすべて個人蔵

山口県立美術館オリジナル
国芳展 LINE 無料スタンプ 登場!



友だち追加でプレゼント
(先着500名様)

コレクション展

シベリア・シリーズⅢ・Ⅳ

Ⅲ. 2025年 9月25日(土)～12月25日(土)

Ⅳ. 2026年 1月6日(火)～4月12日(日)

今年度は、香月泰男のシベリア・シリーズを体験順に4期に分けて展示しています。第Ⅲ期は「収容所での生活」、第Ⅳ期は「帰還と故郷」と題して紹介します。

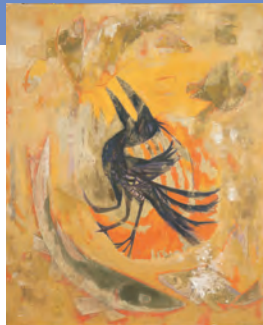


香月泰男《日本海》1972年 山口県立美術館蔵

没後60年 藤田隆治

2026年 3月17日(火)～4月12日(日)

下関市豊北町出身の日本画家・藤田隆治(1907-1965)は、太平洋戦争の戦前・戦後に活躍し、1936年(昭和11)のベルリン・オリンピックで行われた芸術競技部門で銅メダルを受賞したことで知られています。この展示では、「動的な群像」など晩年期的作品を中心に、斬新・革新的な表現が高く評価された藤田隆治の画業を、その代表作によってご紹介します。



藤田隆治《原始太陽》1960年
山口県立美術館蔵

第78回山口県美術展覧会

2026年 2月26日(土)～3月15日(日)

◎ 休館日: 3月9日(月)

絵画・彫刻・陶芸といったジャンルの枠を超えて、自由な表現が魅力の山口県美展。展示室いっぱいの創作意欲あふれる作品と共に、作家ご本人が制作の秘密を明かす「自作を語る」や、県美展作家たちの作品を販売するコーナー「アート・マート」も開催します。詳しくは、県美展要項か、美術館ホームページにてご確認ください。

観覧料

一般600(480)円 学生500(400)円

※()内は20名以上の団体料金。
※70歳以上および18歳以下の方、中等教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍する方等は無料。
※障害者手帳等をご持参の方と、その介護の方1名は無料。

審査員

花田伸一(キュレーター、佐賀大学教授)
やなぎみわ(美術作家、舞台演出家)
鷲田めろ(金沢21世紀美術館館長、東京藝術大学准教授)

